

めぐみイエス・キリスト教会

2025年8月17日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第771号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌315「主の御手に頼る日は」	p. 499
【交読文】	No.57 コリント人への手紙Ⅰ13章	p. 925
【賛美Ⅱ】	新聖歌21「輝く日を仰ぐ時」	p. 28
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【前回説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲「み言葉に帰ろう」	
【聖書朗読】	ルカの福音書10章12節～16節 (p. 135上段)	
【礼拝説教】	《クリスチャンとしての権威と責任》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所

10:12 「あなたがたに言います。その日には、ソドムのほうが、その町よりもさばきに耐えやすいのです。

10:13 ああ、コラジン。ああ、ベツサイダ。おまえたちの間で行われた力あるわざが、ツロとシドンで行われていたら、彼らはどうの昔に粗布をまとい、灰をかぶって座り、悔い改めていたことだろう。

10:14 しかし、さばきのときには、ツロとシドンのほうが、おまえたちよりもさばきに耐えやすいのだ。

10:15 カペナウム、おまえが天に上げられることがあるだろうか。よみにまで落とされるのだ。

10:16 あなたがたに耳を傾ける者は、私に耳を傾け、あなたがたを拒む者は、私を拒むのです。私を拒む者は、私を遣わされた方を拒むのです。」

●ポイント1.ソドムとゴモラとは？

※創世記18章20節および19章23節～25節「ロト」 (旧約p.27上段)

18:20 主は言われた。「ソドムとゴモラの叫びは非常に大きく、彼らの罪はきわめて重い。」

19:23 太陽が地の上に昇り、ロトはツォアルに着いた。

19:24 そのとき、主は硫黄と火を、天から、主のもとからソドムとゴモラの上に降らせられた。

19:25 こうして主は、これらの町々と低地全体と、その町々の全住民と、その地の植物を滅ぼされた。

●ポイント2. ベツサイダとは？

※マルコの福音書8章22節～25節「メシヤのしるし」 (新約p.82下段)

8:22 彼らはベツサイダに着いた。すると人々が目の見えない人を連れて来て、彼にさわってくださいとイエスに懇願した。

8:23 イエスは、その人の手を取って村の外に連れて行かれた。そして彼の両目に唾をつけ、その上に両手を当てて、「何か見えますか」と聞かれた。

8:24 すると、彼は見えるようになって、「人が見えます。木のようですが、歩いているのが見えます」と言った。

8:25 それから、イエスは再び両手を彼の両目に当てられた。彼がじっと見ていると、目がすっかり治り、すべてのものがはっきりと見えるようになった。

●ポイント3. クリスチャンの権威と責任とは？

※マルコの福音書16章15節～18節「昇天の日に」 (新約p.105下段)

◎先週のメッセージ【神の国は近づいている】

《主イエスの一行は、公生涯の最後となる「過越の祭」の巡礼の為に、エルサレムに向かって、歩いていました。その道備えをする為に、十二使徒を始め、六十人の弟子たちを、ユダヤの町々や村々に二人ずつ送り出したのです。この派遣は、十二使徒たちにとっては二回目ですが、六十人の弟子たちには初めてとなります。使徒たちは、彼らの指南役を担ったのではないのでしょうか。

それにしても、主イエスが新たに六十人の者を選ぶ為には、少なく見積もっても、百人近い他の弟子たちがいなくてはならなかったはずです。しかも、この大所帯でエルサレムに入場するには、ローマ総督から暴動を起こす者たちと見られる危険性がありました。

よって、弟子たちの人数を調整する必要がありました。その事をヨハネは書き記しています。その事とは、主イエスがパリサイ人に語った言葉、「私の肉は真の食べ物、私の血は真の飲み物です」と、聞いた多くの弟子たちが、主イエスにつまずいて、去って行った事です。その為、十二使徒と数人の弟子たちだけが、残ったようです。

さて、主イエスは弟子たちを遣わされる前に、「神の国があなたがたの近くに來ていると言いなさい」と、言われたのです。

ところで、「神の国」とは、主イエスが統治される国の事を表わしています。すなわち、主イエスがおられる場所こそ、神の国なのです。

以前パリサイ人たちが、「神の国はいつ來るのですか」と尋ねた時、主は「神の国はあなたがたのただ中にある」と、預言されました。

これは、主イエスの十字架と復活と昇天を経て、約束の聖霊が降って來て初めて、成就することになるのです。神の国はまさしく近づいています。主の再臨によって、世界に千年王国が建設されます。

しかし、今現在でも、靈的な神の国は実在します。それが「教会」なのです。それゆえに、私たちは礼拝に集まる必要があるのです。》

◎お知らせ

※次回、8月24日第四主日礼拝は、通常通り、午前10時からです。